

債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)

追加型投信／海外／債券

当初設定日：2013年10月17日

作成基準日：2025年11月28日

債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)

基準価額の推移



基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	9,700 円	+22 円
純資産総額	12.25 億円	+0.02 億円

期間別騰落率

	騰落率
1ヶ月	0.23%
3ヶ月	0.14%
6ヶ月	2.53%
1年	1.67%
3年	1.00%
設定来	-3.00%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

- ※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。
- ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額

0 円

決算期	2024年10月	2025年4月	2025年10月
分配金	0 円	0 円	0 円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

組入投資信託証券の状況

債券要因	インカム	39 円
	キャピタル	21 円
為替要因		-31 円
分配要因		0 円
その他		-7 円
合計		22 円

組入投資信託証券の状況

投資信託証券	比率
アメリカン・インカム・ポートフォリオ ー クラスIT(為替ヘッジあり)	98.13%
マネープールマザーファンド	0.00%
その他	1.87%
合計	100.00%

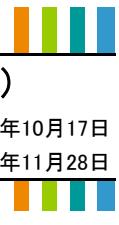
※ 対純資産総額比です。

※ 要因分析は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。あくまで傾向を知るための目安としてご覧ください。

※ 「インカム」とは、保有債券の利子などの収益です。

※ 「キャピタル」とは、債券売買損益および金利変動等の影響による保有債券の評価損益の合計です。

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。



債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)

追加型投信／海外／債券

当初設定日：2013年10月17日

作成基準日：2025年11月28日

債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)

基準価額の推移



基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	20,526 円	+408 円
純資産総額	18.39 億円	+0.25 億円

期間別騰落率

	騰落率
1ヶ月	2.03%
3ヶ月	7.48%
6ヶ月	12.70%
1年	9.62%
3年	32.67%
設定来	105.26%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

- ※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。
- ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額

0 円

決算期	2024年10月	2025年4月	2025年10月
分配金	0 円	0 円	0 円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

組入投資信託証券の状況

債券要因	インカム	81 円
	キャピタル	45 円
為替要因		299 円
分配要因		0 円
その他		- 17 円
合計		408 円

組入投資信託証券の状況

投資信託証券	比率
アメリカン・インカム・ポートフォリオ — クラスIT(為替ヘッジなし)	98.43%
マネープールマザーファンド	0.00%
その他	1.57%
合計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

※ 要因分析は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。あくまで傾向を知るための目安としてご覧ください。

※ 「インカム」とは、保有債券の利子などの収益です。

※ 「キャピタル」とは、債券売買損益および金利変動等の影響による保有債券の評価損益の合計です。

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。



債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)

追加型投信／海外／債券

当初設定日 : 2013年10月17日

作成基準日 : 2025年11月28日

アメリカン・インカム・ポートフォリオの資産の状況

資産内容

債券	103.05%
短期金融資産等	-3.05%
合計	100.00%

特性値

最終利回り	5.31 %
修正デュレーション	5.18
銘柄数	1,334
平均格付	A-

※ 対純資産総額比です。

※ 修正デュレーションとは債券価格の金利変動に対する感応度(変動率)を表しており、この値が大きいほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※ 平均格付とは、基準日時点でのファンドが保有している有価証券の信用格付を加重平均したものであり、当ファンドの信用格付ではありません。

※ 各特性値は、純資産総額に対する値です。また、利回り(税引前)は、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

債券種別構成比

種類	比率
米国国債	41.01%
政府機関債	2.63%
資産担保証券	12.12%
投資適格社債	14.26%
ハイイールド社債	16.41%
新興国債券	7.88%
その他	5.69%

※ 組入証券(デリバティブを含む)の評価額に占める割合です。

格付別構成比

格付	比率
AAA	25.69%
AA	17.04%
A	10.02%
BBB	20.76%
BB	19.54%
B	5.56%
CCC 以下	1.34%
無格付	0.05%

※ 対現物債券構成比です。

※ 格付は、ムーディーズ・S&P等により付与された格付のうち、最上位の格付を採用しています。

組入上位10銘柄

銘柄	セクター	通貨	償還日	クーポン	比率
1 ジニーメイ	政府機関債	米国ドル	2053/5/20-2055/9/20	5.000%	3.45%
2 米国国債	米国国債	米国ドル	2030/5/15	6.250%	3.23%
3 米国国債	米国国債	米国ドル	2027/11/15-2029/8/15	6.125%	2.53%
4 ジニーメイ	政府機関債	米国ドル	2049/5/20-2055/4/20	5.500%	1.94%
5 フレディマック	政府機関債	米国ドル	2053/6/1-2055/7/1	5.500%	1.64%
6 ファニーメイ	政府機関債	米国ドル	2030/11/15	6.625%	1.59%
7 米国国債	米国国債	米国ドル	2028/9/30-2029/4/30	4.625%	1.47%
8 米国国債	米国国債	米国ドル	2027/7/31-2030/6/30	3.875%	1.11%
9 米国国債	米国国債	米国ドル	2044/11/15-2055/2/15	4.625%	1.04%
10 米国国債	米国国債	米国ドル	2028/4/15-2028/12/31	3.750%	1.04%

※ 対現物債券構成比です。

※ 「アメリカン・インカム・ポートフォリオ」の資産内容等は、三井住友トラスト・アセットマネジメントがアライアンス・バーンスタン株式会社からの情報提供に基づき作成しておりますが、掲載データに関する情報の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)

追加型投信／海外／債券

当初設定日 : 2013年10月17日

作成基準日 : 2025年11月28日

アメリカン・インカム・ポートフォリオの資産の状況

ファンドマネージャーのコメント

【市場動向】

11月の米国10年国債金利は、前月末比で低下(価格は上昇)しました。月の前半は、金利は堅調な経済指標を背景に上昇したものの、雇用減速の兆しから低下に転じました。その後、政府機関閉鎖による景気減速懸念の後退やFRB(米連邦準備理事会)による利下げ観測の後退などから再び上昇しました。月後半は、軟調な経済指標を背景とする景気減速懸念などから利下げ観測が強まり、金利は低下しました。

ドル建ハイイールド社債市場は、前月末比で上昇しました。中旬にかけては、FRBの追加利下げへの不透明感やAI(人工知能)関連産業の過剰債務懸念により市場心理が悪化し、スプレッド(米国債に対する利回り上乗せ幅)は拡大しました。その後月末にかけては、FRB高官によるハト派的な発言を受けて、市場は再び利下げを織り込む展開となり、スプレッドはそれまでの上昇幅を概ね戻す展開となりました。当月は一時的なリスク環境の悪化はあったものの、新発債需要は旺盛で、懸念されたテクノロジー・セクターにおいても、AIデータセンター企業が起債に成功しました。ただし、発行目的はリファイナンス中心であり、発行量は10月から鈍化しました。

ドル建新興国債券市場は、前月末比で上昇しました。新興国債券のスプレッドは小幅に拡大しましたが、米国国債金利の低下が要因となりました。月前半は市場心理が悪化し、スプレッドが拡大したものの、その後米国の利下げ期待が高まるにつれて新興国債券を含むリスク資産への需要が高まり、スプレッドの拡大幅は縮まりました。

【今後の見通しと運用方針】

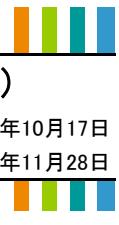
米国経済は、成長は鈍化するもののプラスを維持する見通しです。政府機関の閉鎖、雇用の伸びの鈍化、高水準のインフレといった下押し要因が、貿易赤字の縮小による押し上げ効果によって一部相殺されるとみています。2026年には財政政策がより拡張的になり、金融環境が緩和的な状態を維持する前提で、経済成長はやや回復し、雇用者数の伸びも緩やかに回復すると予想しています。

運用にあたっては、十分に分散されたアプローチが重要と考えており、ハイイールド社債、投資適格社債、資産担保証券、新興国債券、国債に分散しています。イールド・カーブのエクスポート・セクターは中期ゾーンに集中しています。投資適格社債はBBB格を中心に組み入れています。ハイイールド社債は、年初来では主要格付会社による格上げ社数が格下げ社数をわずかに上回っていますが、格上げ/格下げ比率は2024年の水準を下回っています。新興国債券については、多国籍に事業を展開する企業や、成長の可能性があるディフェンシブ・セクターの企業を選好しています。また社債と同様の水準で取引される可能性がある政府機関債にも注目しています。資産担保証券については、引き続き投資妙味があると考えています。エージェンシーMBS(住宅ローン担保証券)は、堅調なパフォーマンスを背景に社債に対するスプレッド幅が縮小したことから、足元は組み入れをやや引き下げていますが、引き続き魅力的だと考えています。また、最高格付のトランシェを中心にCLO(ローン担保証券)にも注目し、当月は組み入れを引き上げました。

ファンドでは、米国投資適格社債や米国国債といった投資適格債券とドル建新興国債券や新興国の社債などの非投資適格債券に分散投資する戦略を維持し、引き続き安定的な利回りの享受を目指す運用戦略を継続します。また、引き続きファンド全体のリスク水準については慎重に対応しつつ、魅力的な機会を選別し投資を行う方針です。

※ 「アメリカン・インカム・ポートフォリオ」の資産内容等は、三井住友トラスト・アセットマネジメントがアライアンス・バーン斯坦株式会社からの情報提供に基づき作成しておりますが、掲載データに関する情報の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。



債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)

追加型投信／海外／債券

当初設定日：2013年10月17日

作成基準日：2025年11月28日

ファンドの特色 ((為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)共通)

- アライアンス・バーン斯坦・ルクセンブルク・エス・エイ・アール・エル(AllianceBernstein (Luxembourg) S. a r.l.)が運用する円建外国投資信託証券(以下「主要投資対象ファンド」といいます。)への投資を通じて、主として米ドル建ての公社債等に投資します。
- 積極的に魅力ある投資機会を追求します。
- 主要投資対象ファンドにおける為替ヘッジが異なるファンドがあります。
- 主要投資対象ファンドの実質的な運用は、アライアンス・バーン斯坦・エル・ピーが行います。

投資リスク ((為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)共通)

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。
従って、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様に帰属します。**
- 投資信託は預貯金と異なります。**

【金利変動リスク】

債券の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【為替変動リスク】

為替相場は、各国の経済状況、政治情勢等の様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。

債券総合型ファンド(為替ヘッジなし)(年2回決算型)は、為替変動の影響を大きく受けます。

債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型)は、主要投資対象ファンドにおいて原則として為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図ることを基本としますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。

【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【カントリーリスク】

投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化、外国為替規制、資本規制、税制の変更等の事態が生じた場合、又はそれが予想される場合には、方針に沿った運用が困難になり、基準価額の下落要因となる可能性があります。また、新興国への投資は先進国に比べ、上記のリスクが高まる可能性があります。

【流動性リスク】

時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

《その他の留意点》

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てる必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。



債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)

追加型投信／海外／債券

当初設定日 : 2013年10月17日

作成基準日 : 2025年11月28日

お申込みメモ ((為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)共通)

購入単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

購入価額 … 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
(基準価額は1万口当たりで表示しています。)

換金単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

換金価額 … 換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(信託財産留保額の控除はありません。)

換金代金 … 原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

申込締切時間 … 原則として、販売会社の営業日の午後3時半までにお申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日のお申込受付とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

購入・換金 … 申込日当日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申込みを受け付けないものとします。

申込受付不可日

- ニューヨーク証券取引所の休業日
- ルクセンブルクの銀行休業日

換金制限 … ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

購入・換金申込受付 … 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。

信託期間 … 原則として、2013年10月17日(設定日)から2028年4月10日までとします。

繰上償還 … 委託会社は、主要投資対象ファンドが償還されることとなった場合、その主要投資対象ファンドに投資を行っているファンドを解約し、信託を終了(繰上償還)させます。

次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。

- ・受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合
- ・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合
- ・やむを得ない事情が発生した場合

決算日 … 毎年4月、10月の各10日(休業日の場合は翌営業日)です。

収益分配 … 年2回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。

課税関係 … 課税上は株式投資信託として取り扱われます。

公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。

ファンドは、NISAの対象ではありません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。

スイッチング … 「債券総合型ファンド」を構成する各ファンド間でスイッチングができます。

スイッチングの方法等は、購入・換金の場合と同様です。

(販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。)

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。



債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)

追加型投信／海外／債券

当初設定日 : 2013年10月17日

作成基準日 : 2025年11月28日

ファンドの費用 ((為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)共通)

《投資者が直接的に負担する費用》

■ 購入時手数料

購入申込受付日の翌営業日の基準価額に**3.3%(税抜3.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

■ 信託財産留保額

ありません。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

■ 運用管理費用(信託報酬)

運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。

<当ファンド>

純資産総額に対して年率1.078%(税抜0.98%)を乗じて得た額

<投資対象とする投資信託証券>

純資産総額に対して年率0.65%

<実質的な負担>

純資産総額に対して**年率1.728%程度(税抜1.63%程度)**

この値は目安であり、投資対象ファンドの実際の組入れ状況等により変動します。

■ その他の費用・手数料

有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。この他、投資対象とする投資信託証券においては、当該投資信託証券の信託報酬とは別に、投資信託財産に関する租税や、投資信託の運営・運用等に要する諸費用が発生します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができます。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」、「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



債券総合型ファンド(為替ヘッジあり)(年2回決算型) / (為替ヘッジなし)(年2回決算型)

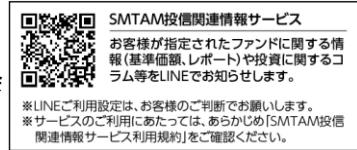
追加型投信／海外／債券

当初設定日：2013年10月17日

作成基準日：2025年11月28日

委託会社・その他の関係法人の概要

- 委託会社 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社(ファンドの運用の指図を行う者)
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
 ホームページ：<https://www.smtam.jp/>
 フリーダイヤル：0120-668001 受付時間 9:00～17:00 [土日・祝日等は除く]
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管及び管理を行う者)



販売会社

商号等	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)※	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社熊本銀行	登録金融機関 九州財務局長(登金)第6号	○			
株式会社十八親和銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社福岡銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第7号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

※ ネット専用のお取り扱いとなります。

- ・お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、販売会社へお申し出ください。
- ・販売会社は今後変更となる場合があります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。